

114  
A2914



上海港内規則

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

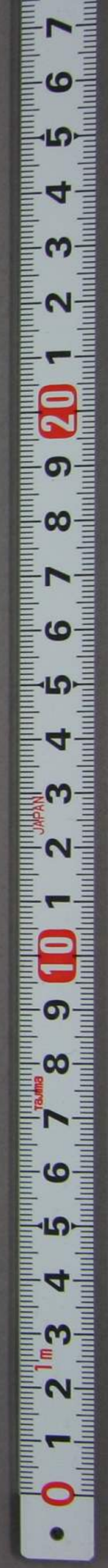
下余之規則も當港に在る各國領事官と  
高事物頭取と共同に決定する所也

第一則

一外國船碇泊場と東門埠と港内取締り所有  
は又カナイ倉船と此境界を以て限るん

第二則

一碇泊場に進行する處に船又カナイ船此処に  
来りて雙方並進時港内取締り助及ぶ者之  
乗移り而其船に相當に碇泊場を各圖すべし





右引船を志して進港する時其引船右カブ  
船を乗込さるる前其船を爲す也

但し川蒸業近海往復蒸業并に此船蒸業  
と已約定者多し碇泊場ある船を右カブイ  
船を是れ爲す可なり

第三則

一港内取締後其許す可し其船其境界  
外碇泊場を變ぜざる可し

第四則

一碇泊場に碇を或場処却り碇し大切なるは

図を爲さるるは船司自ら可なり又一等士  
或は其關係ある水道の者より港内取締  
其助役の者申す可し

第五則

一日没し天明之間前桅の燈木の光は左舷  
燈を照らす可し但し燈木あるは船を前桅の  
引船也

第六則

一運上可し此等殊曲成得るは爲物或は種  
荷等を取扱場以外を掃却す可し又掃却



の付刻り口喉口と祭口を係り、外日出口没を定期

第七則

一港内取締り、開單を受ず、一、撰、高船とて  
大砲及小銃を敷放すべからず

第八則

一帯列、積荷、外火薬或、其他為烈物を積み  
来り船、河只に積り、火薬船と積り、碇泊し、  
一、舟、赤色、の號、旗、を、終、日、前  
掲、張、り、し、但、此、因、來、火、薬、倉、船、規、則、中、  
載、し、し、の、也

第九則

一船中傳染病、船主、の、あ、り、時、常、港、河、の、境、界  
を、一、回、り、し、距、離、を、定、て、其、内、に、入、る、べ、から、ず、前  
掲、の、黄、旗、を、張、り、港、内、取、締、り、を、免、許、せ、ら、れ、  
る、人、上、陸、し、或、外、船、に、行、る、べ、から、ず

第十則

一各船、長、く、者、柱、為、或、灰、杯、を、船、上、に、河、中  
棄、り、る、べ、から、ず、  
棄、り、る、べ、から、ず

第十一則

一港内碇泊、各船、を、非常、に、付、當、り、て、碇、り







千八百五十七年十一月三日記

フロヒンニル

告白

一 吾等所製之印字之紙其色甚佳且其價亦廉  
余等之各國之商號均用之且其見之固亦  
甚為有益也

一 若欲知其詳者請向本行或向各埠之西藥  
或向此後水元或向港內之水元各處之報館或向  
本行辦事處

一 勝橋

一 漢口

一 上海







世本 竹連天也

一 船中能令多何也其船之能の格も統の中  
尖進下之る身し如華武之何刻之之半  
子 此船中又印之也 然を老九の刻之何安に  
初物多何也 混雑一立何れと夫し之安をす  
之は老姑也